日本作業療法士協会主催　2023 年度日本パラスポーツ協会公認
中級パラスポーツ指導者養成講習会　実施報告書

地域社会振興部　地域事業支援課　スポーツ振興班

パラスポーツ指導者とは（日本パラスポーツ協会ウェブサイトより）

公益財団法人日本パラスポーツ協会及び加盟団体等が、公認パラスポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者で、日本国内のパラスポーツの普及と発展を目指して、パラスポーツのスポーツ環境を整備する上で専門的な知識、技術を有する人材の養成、資質向上を目的としている。

「中級パラスポーツ指導者」は、地域のパラスポーツ振興のリーダーとして、指導現場で充分な知識や経験に基づいた指導をする指導者であり、地域のスポーツ大会や行事において中心となり、地域のパラスポーツの普及・進行を進める役割を担う。また、より専門的な知識を学ぶことで、上級指導員やスポーツコーチを目指すことができる。なお、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者、日本理学療法士協会登録理学療法士の場合、一定の条件を満たせば、各資格対象の中級講習会を受講することができる。

講習会実施の背景

2020 年東京オリンピック・パラリンピックが開催されることになり、国民の関心がスポーツに集まっていく中で、日本作業療法士協会もスポーツに対する支援活動を行うため、「障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会」(2018 年度～2021 年度特設委員会、以下、旧委員会）を設置した。旧委員会では、競技としてのスポーツに限定せずにスポーツを生活に取り入れることで、その人の生活を豊かにすることを目指して活動し、会員の皆様にパラスポーツと作業療法に関する情報提供を行った。

1. 会員に広い関心と関わりをもってもらうために、広報動画とリーフレットの作成
2. 会員によるパラスポーツ取組み事例の紹介
3. 会員による東京パラリンピック競技大会の報告
4. 全国障害者スポーツ大会と都道府県作業療法士会の関わりの紹介
5. 研修会、講習会、学会情報の提供

旧委員会の活動のなかで、作業療法士がパラスポーツに関わるための環境整備についてさまざまな可能性を模索してきたが、その一つに 日本パラスポーツ協会公認「中級パラスポーツ指導者養成講習会」（以下、養成講習会）の開催があった。そして、旧委員会から引き継いだ地域社会振興部 地域事業支援課 スポーツ振興班は、日本パラスポーツ協会と幾

度となく検討・協議を重ねた結果、2023 年、本会主催の養成講習会を初めて開催する運びとなった。本会は、養成講習会を通じてパラスポーツの現場で活躍する作業療法士を育成し、全国の障害者スポーツ協会・関連団体やパラスポーツに取り組む当事者に、作業療法士の存在と役割を認知していただくことを目指している。通常は初級パラスポーツ指導員の資格を持っている方が 57 時間の講習会を 9〜10 日間かけて行うものであるが、この養成講習会は、今回新たに策定された作業療法士専用のカリキュラムで実施（講習時間を 29.5 時間、期間を 4 日間に短縮）された。もちろんこれは日本パラスポーツ協会公認のカリキュラムであり、4 日間の養成講習会に出席してすべての科目を受講し修了することで、修了証が授与される。修了者は日本パラスポーツ協会への申請・登録後に中級パラスポーツ指導員として活動することができる。

募集要項

研修分類	重点 教育部
概要および目的	日本パラスポーツ協会公認中級パラスポーツ指導員資格を取得するための研修を実施することで，障害者スポーツ協会、パラスポーツに関わっている人、パラスポーツに取り組む当事者に作業療法士の存在と役割が認知されるような活動に取り組む作業療法士を育成する。
対象者 （応募資格）	今後パラスポーツに関わりたいと考えている作業療法士で、公認資格取得後の追跡調査（アンケート）にご協力いただける方
日程	2023 年 10 月 21 日(土)〜22 日（日）：座学オンライン 2023 年 11 月 25 日（土）〜26 日(日)：実技対面
場所	実技： 東京都北区十条台 1 丁目 2-2　東京都障害者総合スポーツセンター
参加費	￥19,500（4 日間の受講費+テキスト代）

募集期間と申込結果

協会ホームページ、機関誌、メール等で広報活動を実施し、2023 年 6 月〜8 月で募集を行った。定員 40 名に対して 100 名を超える会員からの応募があり、会員の興味関心の高さがうかがえた。厳正なる抽選の結果、受講生が決定した。

開催結果

10 月 21 日・22 日に座学(オンライン)、11 月 25 日・26 日に実技(対面)を開催した。受講者 37 名全員が最終課題（レポート提出）を通過し、全ての課程を修了した。その結果、日本パラスポーツ協会の 2024 年度指導者制度「第 4 条 指導者の養成」に、指導者を養成できる団体として「日本作業療法士協会および都道府県士会」および本会の中級カリキュラムが盛り込まれることとなった。

日本作業療法士協会の作業療法士対象カリキュラム

領域	講習科目	内容	時間
医療	障がい各論	各種障がいに関する医学的・心理的な特性を学び、日常生活やスポーツ現場で関わるうえでの留意点について学ぶ。視覚障がい（1.0h）、聴覚・音声言語障がい（1.0h）、知的障がい(発達障がいを含む）（1.5h）	3.5
体育学	スポーツの意義と価値 （※演習含む）	スポーツが本来もつ、身体的・文化的・社会的な意義や価値について学ぶ。また、障がい者にとってのスポーツの意義と価値についても学ぶ<演習：スポーツのインテグリティについて話し合う>	1.5
	スポーツ心理学	障がい受容について受傷からの心理的プロセスを学ぶ。さらに障がい者の体験談を通して、スポーツの心理的効用と心理的支援の方法について学ぶ。	1.5
	トレーニングの基礎知識	各種トレーニングの特徴を理解し、障がいに留意したトレーニングプログラムに組み立て方や実施上の留意点について学ぶ。	1.5
障がい者スポーツ	パラスポーツと作業療法士	作業療法士として、パラスポーツの造詣を深めるとともに、関わる意義やその方法について学ぶ。また、公認パラスポーツ指導者制度の概要を学び、指導者の役割についても学ぶ。	1.5
	地域におけるパラスポーツ振興	パラスポーツに関わる競団体や関係所管について理解し、連携することの必要性について学ぶ。	1.5
	全国障害者スポーツ大会の概要	我が国のパラスポーツを知る上でその歴史的な背景も含め、全国障害者スポーツ大会の概要（実施競技を含む）を学ぶ。また、大会に参加するスタッフの役割についても学ぶ。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 の障害区分	全国障害者スポーツ大会の障害区分を正しく理解し、障害区分を判定する際の留意事項等を学ぶ。	1.5
	障がい者のスポーツ指導上の 留意点と工夫	各障がいに応じた指導の事例を通して指導上の留意点（リスク管理を含む）について学ぶ。	2.0
	補装具の理解	補装具の種類や特徴を学ぶとともに、指導者として最小限知っておくべき事柄やスポーツ指導現場での留意点を理解する。	1.5
実技・実習	視覚障がい者のスポーツ実習	視覚障がい者が行うスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、介助法（手引）やコーチング（方向指示・言葉かけを含む指導）の仕方を含め、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	1.5
	最重度の障がい者のスポーツの実際（重症心身障がい児・者を含む） （※見学・実技可）	最重度の障がい者（重症心身障がい児・者を含む）のスポーツを理解し、様々な創意工夫の実例について学ぶ。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 実施競技の実習	全国障害者スポーツ大会の実施競技を体験する中で、その競技特性やルールについて理解を深め、障がい者がスポーツを実施する際の指導上の留意点について学ぶ。（他実習と時間と実施競技が重ならないようにする）	6.0
	パラスポーツとMTDLP	パラスポーツの実践事例を紹介し、ケーススタディーを通して、身体評価、残存能力の評価等に加え、実践するスポーツの競技特性の理解や自助具等の環境設定等により、障がい者のスポーツへの適用について考える。	2.0
レポート	活動実績報告	パラスポーツに関わるきかけ作りとして、講習会終了後に個別に地域でのパラスポーツに関わる活動をし、その内容をレポートにまとめ提出する。	講習後作成提出
備考	講習会の中で、グループワークやアクティブラーニングを通じてコミュニケーション能力の向上をめざす。		29.5

日程表

	場所	日程	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
前期	オンライン実施	10月21日（土）	8:20～受付 8:40～開講式	9:00～10:30（1.5H） パラスポーツと作業療法士 日本作業療法士協会　常務理事 作業療法士　酒井　康年	休憩	10:40-12:10(1.5H) 地域におけるパラスポーツ振興 笹川スポーツ財団 政策ディレクター　小淵　和也	12:10-12:50 昼食	12:50-13:50（1H） 障害各論（視覚障害） 日本眼科学会専門医 清水　朋美	休憩	14:00-15:00(1H) 障害各論（聴覚・音声言語障がい） 筑波技術大学 中島　幸則	休憩	15:10-16:40(1.5H) 障害各論（知的障がい、含：発達障がい） 東京都立大学 作業療法士　伊藤　祐子	休憩	16:50-18:20 (1.5H) トレーニングの基礎知識 山口コ・メディカル学院 作業療法士　徳若　雅之
		10月22日（日）	8:30～受付	9:00～10:30（1.5H） スポーツの意義と価値（演習） 帝京平成大学 作業療法士　鐘田　英樹	休憩	10:40-12:40(2H) 全国障害者スポーツ大会の概要 株式会社challenge福祉事業部 作業療法士　那須野　利喜	12:40-13:20 昼食	13:20-14:50(1.5H) 全国障害者スポーツ大会の障害区分 兵庫県障害者スポーツ協会 理事長　増田　和茂	休憩	15:00～16:30（1.5H） 補装具の理解 （公財）鉄道弘済会 研究室長　臼井　二美男	休憩	16:40-18:10(1.5H) スポーツ心理学 三軒茶屋診療所 東京リワークセンター 作業療法士　佐藤　俊之		
後期	東京都障害者総合スポーツセンター	11月25日（土） 多目的室・研修室		9:00～受付	9:30-11:30(2H) 障がい者のスポーツ指導上の留意点と工夫（実技・演習） 東京都障害者総合スポーツセンター スポーツ支援課　矢壁　彰	11:30～12:15 昼食	12:15～14:15（2H） 全国障害者スポーツ大会実施競技 （実技：車いすバスケットボール） 東京都障害者総合スポーツセンター スポーツ支援課　中村　拓也		休憩	14:30～16:30（2H） 全国障害者スポーツ大会実施競技 （実技：ボッチャ） 東京都多摩障害者スポーツセンター スポーツ支援課　小峰　久美	休憩	16:45～18:45（2H） 最重度の障がい者のスポーツ （実技：ハンドサッカー） 都立永福学園 主任教諭　山田　晴信	
		11月26日（日） 体育館・研修室		9:00～受付	9:15～10:45（1.5H） 視覚障がい者のスポーツ （実技：STT、伴走等） 東京都障害者総合スポーツセンター スポーツ支援課 係長　大友　奈々美	休憩	11:00～13:00（2H） 全国障害者スポーツ大会実施競技 （実技：陸上） 東京都多摩障害者スポーツセンター スポーツ支援課 係長 橋本 和秀	13:00-13:45 昼食	13:45～15:45（2H） パラスポーツの生活化に向けた実践事例の検証（演習） 北海道医療センター 作業療法士　田中　栄一 （補助：佐藤　好・三木　孝太）	休憩	16:00～閉講式	16:20～17:00 館内見学 （自由参加）	

2024 年度に向けて

2024 年度も本会主催で養成講習会を開催する。2023 年度は多くの会員の希望をお断りした経過を踏まえて、より多くの会員に受講いただくため、実技を 2 拠点で実施することになった。

総括

スポーツ振興班では、作業療法士が積極的にパラスポーツ支援に関わることで、支援を必要とする方がスポーツを通じて社会参加することができ、そしてパラスポーツの理解啓発に取り組むことにより人々の意識が変わり、共生社会が実現されると考える。

指導者資格を取得することで、地域のパラスポーツ団体等より大会や練習会の案内が届くようになる。それに伴い、指導者資格を有する作業療法士は各地域でのスポーツ支援活動がより行いやすくなるだろう。障がいのある方は生活の中でスポーツを行うことで心身機能の向上、ADL の改善、QOL の向上、will-being にも繋がる可能性がある。また、競技スポーツ、市民スポーツ、生涯スポーツ、健康スポーツ、見るスポーツ等、スポーツにも多様性がある。スポーツ支援はスポーツの現場に限らず、作業療法士は ADL の介入、公共交通機関での支援、自助具の作成、その人にあったルールの作成、重度の障害を持たれている方への e-スポーツ支援等、生活に沿った支援ができる。障がいのある方に、その人にあったスポーツ支援は作業療法士だからこそできると考える。

また、日本パラスポーツ協会からは都道府県士会と都道府県パラスポーツ協会の連携強化、および地域でパラスポーツ支援活動が行えるように講習会修了者の資格取得後のフォローの重要性について助言をいただいている。スポーツ振興班は、中級講習会の開催を通して地域でスポーツ支援ができる人材を増やすと同時に、地域での活動環境を整えていくことを目標とする。

謝辞

本養成講習会の開催実現にあたり、日本パラスポーツ協会の皆様には丁寧なご指導ご助言をいただきました。また、東京都障害者スポーツ協会、東京都障害者総合スポーツセンター、東京都多摩障害者スポーツセンターの職員の方々には講師の紹介・調整、会場・備品の予約手配、当日の運営など、細部にわたるご支援ご協力をいただきました。ここに深く感謝いたします。そして、本講習会の趣旨を理解し快くご協力くださった、座学と実技の講師の皆様に心から感謝いたします。誠にありがとうございました。

2024 年 3 月